

(令和7年11月)

種 類	市況の概要
(青果部の動向) 青 果 全 般	11月の総入荷量は、前年と同様に、天候不順の影響から多くの品目で品質や収量の低下がみられたため、総入荷量は前年同月比で9%下回ったが、高値で推移する品目もあり、総取扱金額は前年同月並みだった。今後、入荷は多くの品目で順調な生育により回復傾向となり前年並の入荷が予想される。 12月は、雑煮大根や葉付みかん、串柿等の年末商材が入荷し、堀川ごぼうや海老いも、干柿の入荷が最盛期を迎える。果実では、早生みかんは徐々に普通みかんに切り替わり、いちご類がクリスマスや年末の需要に向けて増加する。
野 菜	野菜全般の入荷量は前年同月比で9%下回ったが、単価は前年同月並みだった。 根菜類の入荷量は前年同月比で11%下回ったが、高温により秀品率が低かった長大根の影響などで単価は5%下回った。 葉菜類の入荷量は前年同月並みであったが、単価は22%下回った。 果菜類の入荷量は前年同月比で12%下回り、単価は6%上回った。 土物類の入荷量は前年同月比で20%下回り、単価は43%上回った。
果 実	果実全般の入荷量は前年同月比で11%下回ったが、秀品率の低かった品目の影響などで単価は4%下回った。 かんきつ類の入荷量は前年同月比で7%上回り、単価は14%下回った。 りんご類の入荷量は前年同月比で12%下回ったが、猛暑の影響で秀品率が低く、単価は5%下回った。 柿類の入荷量は前年同月並みであり、単価は15%下回った。 メロン類の入荷量は前年同月比10%下回ったが、猛暑の影響で秀品率が低く、単価は7%下回った。

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】	
長だいこん	千葉、青森、徳島、長崎、北海道などから入荷した。入荷量は前年同月比で８％下回ったが、高温の影響で秀品率が低く単価は２１％下回った。
かぶ	京都を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で６９％上回り、単価は４１％下回った。
西洋にんじん	北海道、長崎を中心に、青森、熊本、中国などからも入荷した。入荷量は前年同月比で３０％下回り、単価４１％上回った。
【葉菜類】	
はくさい	茨城、長野を中心に、滋賀などからも入荷した。入荷量は前年同月並みだったが、高温・かんばつの影響により過去５年で最高の単価だった前年と比較して単価は２２％下回った。
キャベツ	愛知を中心に茨城、群馬、長野などからも入荷した。入荷量は前年同月比で４％上回り、単価は５７％下回った。
ほうれんそう	茨城、岐阜、京都、福岡を中心に滋賀などからも入荷した。入荷量は前年同月並みで、単価は４％上回った。
レタス	兵庫、徳島、長崎、茨城などから入荷した。入荷量は前年同月比で１９％下回ったが、高温による定植の遅れの影響でやや秀品率が低く、単価は２２％下回った。

【果菜類】

きゅうり

宮崎を中心に、滋賀、高知、福岡、佐賀などからも入荷した。入荷量は前年同月並みで、過去5年平均より上回っているが、大雨の影響で生育状況が悪く数量減となり過去5年で最高の単価だった前年と比較して単価は21%下回った。

なす

高知を中心に、岡山、京都から入荷した。入荷量は前年同月比で13%下回ったが、夏場の定植時の高温の影響と11月の気温低下による数量減により過去5年で最高の単価だった前年と比較して単価は7%下回った。

とまと

熊本、福岡、北海道、岐阜、滋賀などからも入荷した。入荷量は豪雨により定植が遅れた産地の影響などにより前年同月比で24%下回ったが、単価は20%上回った。

ピーマン

宮崎、高知、茨城、大分を中心に鹿児島などからも入荷した。入荷量は冬春産地への切り替えの時期により前年同月比で8%下回ったが、需要が低く単価は5%下回った。

【土物類】

ばれいしょ
(メイクイン含む)

北海道を中心に入荷した。入荷量は高温・干ばつによる小玉化の影響で減産となり前年同月比で8%下回ったが、給食に使われるメイクインなど標準サイズのものの供給が足りず単価は103%上回った。

たまねぎ

北海道を中心に兵庫などからも入荷した。入荷量は前年同月比で28%下回り、単価は67%上回った。

主要品目（果実）	市況の概況
早生みかん	和歌山を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で４％下回ったが、需要が低く単価は１５％下回った。
富士 (サン富士含む)	長野、青森を中心に、岩手などからも入荷した。入荷量は前年同月並みで、単価は７％下回った。
富有柿	奈良を中心に、福岡などからも入荷した。入荷量は猛暑の影響で秀品率が低く前年同月比で１３％下回ったが、需要が低く単価は２７％下回った。
アールスメロン	静岡、長崎を中心に、高知などからも入荷した。猛暑の影響で入荷量は前年同月比７％下回ったが、秀品率が低く単価は３％下回った。